

# ホットな いい気分

校長 輿水秀志



早いものでもう七月も中旬になり、富士山の山開きや京都の祇園祭も始まり、すっかり夏らしくなってきました。ある日のこと、仕事が一息つき、外に目をやると、校長室の窓からは、深緑の葉をつけた木々の向こうに、西に鮮やかな陰影の南アルプス、東南に大きくくっきりと美しい富士山が見え、新鮮な気分になりました。そして、気を入れ直し再び机に向かっていると、背後から窓越しに、「校長先生、こんにちは。」と呼びかける声があります。振り返ると二年生の女子生徒たちでした。言葉を返すと、学習や部活動、学園祭などの話をとても熱心に話してくれました。「巨摩高校は毎日充実していてとても楽しいです。」とも話してくれました。彼女たちの熱い思いが伝わってきました。とてもホットな気分になりました。

校生活、趣味・特技など目を輝かせ、熱く語ってくれました。巨摩高校生の情熱と明るさ、さわやかさを感じたひと時でした。

六月から七月にかけてアメリカのデモイン市の高校生との国際交流、学園祭(白嶺祭)、第二定期試験などがありました。皆それぞれが力を尽くして一生懸命取り組み、良い成果を上げています。特に白嶺祭は「響(びびき)」というテーマのもと、全校生徒・職員が丸となって取り組み、多くの人の心にすばらしい感動と「響」を与えてくれました。私は大きな喜びを感じるとともに、青春ついでいなと改めて感じました。六月二十九日の巨摩高説明会では、雨の中を約六五〇名もの中学生や保護者が本校生徒の演奏や演技、本校の教育課程や特色と入試についての説明などを真剣に聞いてくださいました。感謝とともに、心が熱くなり、中学生や保護者の期待に応える巨摩高づくりに教師、生徒、丸となってさらに努めていきたいと強く思いました。

巨摩高校の国際交流事業は平成10年のアメリカ短期研修旅行から本格化し、平成12年1月にはアメリカ・アイオワ州セントラルキャンパス校、サウスダコタ州スタージズブラウン校、オーストラリア・ウーバーゼー校と姉妹校の調印を交わしました。以来10年にわたり短期研修という形で相互に訪問し、交流を深めています。

今年度は6月13日から18日にかけてアイオワ州デモイン市からセントラルキャンパス校、バレー校の生徒18名と引率の先生2名、キャンパス校の校長先生が来訪し、英語や芸術の授業や部活動見学を体験しました。また休日にはホストファミリーと身延山・昇仙峡などを観光し、進修館で行われたボトラックパーティーでは80名もの参加者で盛り上がりました。

## 海外の高校生と 共に学び、 共に楽しむ。

特集 01

今年で10年目を迎えた、巨摩高校の国際交流事業



# 響

HIBIKI

## 第54回 白嶺祭

6月25日(水)・26日(木)

特集 02

全校生徒・職員が  
一丸となって取り組み、  
多くの人の心に、  
すばらしい感動と  
「響」を与えてくれました。

第54回白嶺祭は6月25日(水)、26日(木)に開催されました。今年度のテーマは「響(びびき)」。「目目は白根桃源文化ホールでオープニング、文化局の吹奏楽部、音楽部、箏曲部の発表、1・2年のクラスパフォーマンスが行われました。

2日目は巨摩高校で、体育館では3年生のクラスパフォーマンス、フリースターのバンドやダンスが行われました。また各クラスのホームルームでは緑日やお化け屋敷などのクラス企画が催されました。中にはアフリカの飢餓を訴えるものや、昭和を回顧するものなど硬派の企画もありました。進修館では茶道部の茶会、美術部、写真部、華道部、自然科学部の展示がありました。

ボランティア委員会では例年この学園祭に養護施設の老人を招待して、今年も多くのお年寄りに学園祭を楽しんでいただきました。

校舎の前面を飾ったのは、全校制作。牛乳パック3200枚で制作した巨大壁画は、音符を加えた鳥が地球から羽ばたくスケールの大きなもので、見る者に大きな感動を与えてくれました。



姉妹校を迎えて  
研修(国際交流)主任 池川富美子

今年も米国姉妹校よりアメリカの生徒の訪問団を迎えました。今年で10年目という交流が、生徒や保護者の協力、理解のもと、また一歩みをすすめられたことに大きな喜びを感じています。

アメリカの生徒たちは、巨摩高校での短い滞在を楽しみ、別れを惜しんでくれました。また巨摩高校の生徒たちも、日頃の英語力に加えて、総合力でしっかりコミュニケーションを図ってくれました。書道の授業を参観して、楽しく筆をとって教える様子に生徒たちの力を見直しました。巨摩高校にはすばらしい校歌があります。その一節に「平和の虹を懸けむかな」とあります。このような交流が長く続き、人と人、国と国を結ぶ架け橋となることを願っています。